

池田全道王者

砂原も全国、江口3位

全道高体連

【18日・よつ葉アリーナ(札幌)】

最終日は男女の個人戦シングルスを行った。男子は池田侑輝(帯大谷3年)が北海道決勝で砂原泰斗(同)との同校対決を2-0(21-17、24-22)で初制覇した。池田は、北海道王者の資格を得た。池田は、全道決勝でも2-1(22-20、19-21、21-17)で競り勝ち、頂点に立った。帯大谷勢としては2019年に上山昇大(現龍谷大2年)が全道優勝。新型コロナウイルスの影響で中止になった昨季を挟み、2大会連続となった。池田と砂原は南北各上位2位までに与えられる全道高校総体(インターハイ、8月8-13日・富山)の出場権を得た。女子は澤沼直里(旭川実3年・帯一中出)が準優勝、インターハイへ。江口碧(帯大谷1年)は3位と健闘したが全国には届かなかった。江口の姉の遥(帯南商3年)と濱下亜美(帯大谷2年)は8強だった。記録は後日掲載。

(北雅貴、新井拓海、塩原真)

思い背負い戦った



男子個人戦シングルスで全道優勝を果たした池田侑輝(左、帯大谷3年)と、北海道で準優勝した砂原泰斗(同)。共にインターハイでの活躍を目指す

一歩も引かず強気のショット

【男子個人戦シングルス・全道決勝】ネット際の攻防を繰り広げる帯大谷の池田侑輝(奥)。ファイナルゲームにもつれ込む根比べの末に粘り勝ちし、頂点に立った

「団体戦も個人戦ダブルスも(全)国出場を、落とした。引退する3年生や後輩、支えてもらった多くの人の気持ちを自分なりに背負って戦った。全道優勝の池田侑輝は、言葉を震わせた。

初日の団体戦、前日の個人戦ダブルスとはあんなに勝てず、インターハイを逃していた。この日は、全道出場の懸かった北海道決勝で、第2シードの太田蓮(旭川実3年)と対戦。ファイナルゲームは序盤に4連続失点したが、我慢を重ねて挽回した。コースを突いたカットに絶妙なヘアピン、鋭いスマッシュを打ち続けた。18-15からスマッシュがアウトしても弱気にならず、その後の2ポイントを連続でエースを奪った。「引くことはできない。最後までぶつかって出せるものをすべて出すしかない。腹をくくった強気のショットだった。」

決勝で砂原泰斗を破り、全道決勝は小学時に所属したASA東・羽根倶楽部(札幌)でチームメイトだった富樫柚月と激突。今春の全国高校選抜大会に出場し、5月の国体選手選考少年の部も制した強敵戦いを見据えた。

北北海道で準Vの砂原

攻守で躍動



【男子個人戦シングルス・北北海道決勝】準優勝し、個人戦で初の全国大会参戦の権利を得た帯大谷の砂原泰斗

て、個人戦では初の全国大会。「本場にうれい。チャレンジ精神で戦えた」と笑った。

180センチの長身から繰り出す角度のあるスマッシュは「全道ナンバーワン」(相澤俊彰監督、ネット際に落とすヘアピンも効力を増し、シャトルに触れさせない場面もあった。守りもロブは深さを意識。スマッシュを打たれてもしっかりとレシーブした。

第1ゲームの終盤に20-7から8連続失点し、微妙な流れで入った第2ゲームで、個人戦では初の全国大会。「本場にうれい。チャレンジ精神で戦えた」と笑った。

旭川実の けが越えさらに成長

「成長した姿を見ることができてうれしい」。旭川実の澤沼直里は、全道優勝を果たした。全国ベスト8。より強い練習相手を守り、故郷でつかんだ全道優勝を喜んだ。

「一番苦しかった。個人戦ダブルスの鍵となったのは、濱下亜美(帯大谷2年)との準決勝。緊張もあり第1ゲームは奪われるも、第2ゲームからは「届かない」と思っても、必死に足を動かした。ここは負ければならない。けがの経験が、澤沼を奮い立たせた。2年生の夏から今年3月まで、腰椎分離症の影響で、まともに練習できなかった。それでも腹筋や脚のトレーニングで体を磨き、できる限りの走り込みにも取り組んだ。困難を乗り越えたことが、一番で不屈の精神となって現れた。

帯大谷小・帯一中を共にした濱下相手に、得意の我慢するラリーを貫いた。決めるはずのラリーのラリーに持ち込み、相手のミス誘発。相手のスピードが落ちた時には、すかさずクロスへの鋭いカットを放ち、2-1で逆転勝ちした。地元を離れた向上心は報

観客のため、家族や励ました。続けてくれた中学時の指導者に勇姿を見せられなかった。「多くの人の支えがあった。全国をつかめた。持ち味の上からのショットに持ち込む展開力を強化した」と表情を引き締めた。

「姉の分をリベンジ」江口

「格上の相手にもひるむことはなかった。準決勝で第1シードに善戦した帯大谷の江口碧が、1年生ながら3位入賞を果たした。準決勝の相手・土佐梨緒(旭川実2年)に、姉の

「考え方を切り替えたのが良かった。自分の攻撃だけではなく、コート深くへ配球し相手の長所を出させないようにして逆転できた。準決勝は相手のショットの精度が高かった。」

個人戦シングルス共に全国出場を果たした実力者。中学の先輩である、総合力に優れた濱下亜美(2年)に憧れて帯大谷を選んだ。今後は筋トレを重ね、得意のスマッシュに磨きをかける。「団体戦で全道優勝し、全国優勝を目指す」と将来の目標を掲げ、志高い新星が新チームを突き上げる。



【女子個人戦シングルス・北北海道準決勝】力強く打ち返す帯大谷の江口碧

21日に再開

道軟式野球連盟十勝支部は、現在休止中の第16回丸山杯第50回支部長杯大会を新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言解除後の21日に再開する予定だ。

同大会は5月10日に十勝川河川敷球場で開幕。同14日(大会日程第5日)まで消化したが、他大会と使用球場が重なり、さらに感染拡大に伴い同15日以降休止している。

21日(同第6日)は1次戦の残り2試合と2次戦1試合を行う。

【21日の試合】

午前5時試合開始

▽1次戦

▽十勝川AISC・ROYAL

▽十勝川B・年中野球

▽別府役場

▽2次戦

▽十勝川C・華恋・アルファ

▽エッタWB

かちまいスポーツ

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶0120-255-9410
Eメール▶sports@kachimai.co.jp
ファクス▶0155-255-2700